おひさまだより

令和５年 10 月２日

社会福祉法人 みどり会
みどりの森おひさま保育園

園 長　免出 智美

涼しい秋風に、高く澄んだ空。日に日に秋の深まりが感じられるようになってきました。活動も一段と活発になり、子どもたちは自ら工夫、想像し運動あそびに意欲的です。今月は運動会があります。運動会の主人公は、いうまでもなく子どもです。日々の遊びの延長線上に、身体を動かすことを楽しんだり、子どもたちが前向きに取り組みたいことを聞き取りながら、発達に応じた種目にチャレンジします。様々なことに意欲的に挑戦してきたにもかかわらず、運動会当日は、いつもの姿を発揮できない子もいます。沢山の方に見られているという〝非日常〟の環境に緊張しているのかもしれません。運動会はゴールではありません。日々の生活の中で子どもたちが成長し続ける姿を大切に温かく見守っていただければと思います。

10 月行事予定			
月	日	曜	行　事　予　定
10	7	土	運動会
	12	木	身体測定（乳児組）
	13	金	身体測定（幼児組）
	17	火	避難訓練（消防車見学）
	18	水	おひさま広場(未就園児)
	19	木	交通安全教室（ひかり組）
	26	木	秋の遠足(うさぎ組)
	27	金	秋の遠足(そら組)
	30	月	ミニコンサート・おひさま広場（在園児・未就園児）
弁当日：７日・28 日　　※変更の場合あり			

詳しく読んでみたい方は、貸し出しも行いますので事務所の方へ声をかけてください。

十分の甘えさせると自信がつく

親に甘える経験をして、親の愛情がまっすぐに伝われば伝わるほど、自信がある子、やる気がある子、優しさと強さの両方を兼ね備えた子になっていきます。たとえば「大事な子だから」と言うと、子どもの心がぐっと安定します。逆にブツブツと文句を言って手を貸すのであれば、子どもの要求である「甘え」が充足できないので、今後も次々と違う甘えの要求を出すことになります。

「〇〇ちゃんのこと大好きだよ」などと言われて優しく抱っこされると、それだけで自然に「自分は愛されるべき人間なのだ」と自信が育ちます。それが積み重なると、自分で自分の存在を認める自己肯定感（自分を大切な存在だと思える感覚）が育ちます。

忙しいときほど甘えてくる理由

「甘えさせる」ことは大事と分かっていても子育てと家事に追われ、自分の体はすでにへとへと状態。そんな体力も時間もないときに限って「お母さん見て」と子どもが言う。お母さんがのんびりしている時には、何食わぬ顔をして遊んでいます。子どもはお母さんが大好きで、お母さんの愛情がないと生きていけません。今、お母さんの時間や心の余裕がないのであれば、なおのことその残り少ない時間や、心の余裕を奪っておきたいと思うのです。

子どもがいつまでも「やって！」というと「いい加減にしなさい」と現実には子どもの甘えを100%受け入れることはできません。子どもに苛立ちを感じた時の、処方箋を紹介します

子どもを怒らずにすむ処方箋

【1】 冷静にお母さんの要求を言葉で伝える。

大きな声を出され強い口調で注意された時に、自分は怒られたと感じます。ですから**声のボリュームとトーンを落とし冷静に伝える**ことが大切です。

【2】 子どもと折り合いをつける。

子どもはお母さんから拒否されたと感じると、酸素不足になるのと同じように苦しんで暴れます。しかし、子どもを甘えっぱなしにしているとお母さんの心がぐしゃぐしゃになってきます。「やりなさい」と高圧的に怒鳴るのではなく「お母さんが見ているからやってごらん」など折り合いをつけてます。

ドキュメンテーションから抜粋

子どもは、遊びからたくさんのことを学んでいます。「**何を感じ**」「**気付き**」「**理解できる**」ようになるのか、「**試す**」「**工夫する**」「**表現する**」など学びに向かう力がドキュメンテーションに毎日記録されています。子どもたちの豊かな感性やおもしろい発想、友だちへの思いやり、協同する力をドキュメンテーションからみつけてください。

どんぐり（0 歳児）　「どうぞから広がる世界」

遊びの中でも、関わりたい気持ちから、”どうぞ”と玩具を渡す姿が見られます。玩具で遊ぶことで集中力が身につくだけでなく、友だちや保育者との関わりを通して、人への興味を持ち始めていきます。興味関心が広がることで、新しい世界が子どもたちの中で広がっていきます。

たけのこ（1 歳児）　「お水出るかな～？」

どうすると下から水が出るのか、じょうごの向きを変えたり、持ち方を変えてみたりと試行錯誤しながら楽しんでいます。自分たちで道具の使い方を考えて、”こうやったら楽しい”を見つけています。楽しそうな姿を見て、他の子も同じ道具で一緒に遊び、遊びは広がっていきます。

りす（2 歳児）　「まんまるいっぱい」

ススキやお花に触れたり、お月見の絵本を見たりする中で、日々のお団子作りに繋げて遊んでいます。「なんでお月さま、丸いの？」「なんでお団子食べるの？」「ススキはなんで飾るの？」と色んな興味が湧いています。「なんで丸いのかな？」と聞いてみると「誰かがまるめたんじゃない？こうやって！」と想像を膨らませて行事を楽しんでいます。

うさぎ（3 歳児）　「うまれる！？」

自分のなりたい役割になりきると病院ごっこ遊びが始まりました。医者役の子どもたちは道具を準備し、患者役の子どもを診察します。イメージを共有しながら場面を展開させたり、時には保育者の仲立ちで友だちと世界観を楽しんでいます。

そら（4 歳児）　「波と海の生き物との出会い」

「かいがらみつける」「やどかりいるかな」と、海を見ると走って行き、波の動きに合わせて動き、足に当たるたびに波を感じたり、ヤドカリやカニをたくさん見つけ怖がりながらも触ってみたりしていました。五感を使う喜びを感じたり、好奇心・興味が刺激されたりする中で芽生えた好奇心は、将来の学びの土台になっていきます。

ひかり（5 歳児）　「染まるかな？」

昨年度の経験から、豆乳をしっかりと服に染み込ませること、初めての友だちにはアドバイスをしてあげる事、手順を聞く中で分からないことを質問したり、友だちと相談したり、共通の目的に向かって、皆で協力し、見通しを持った過ごしをしています。